
曖昧な関係

藍図乃々

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

曖昧な関係

【Nコード】

N1819D

【作者名】

藍図乃々

【あらすじ】

友達以上恋人未満。そんな関係をなんと呼びますか？関係をハッキリさせる事は重要ではないですか？

1・分かれ道

ちゃんと恋したのは何年前だろう……。

「彼氏いるの？」友達の質問に曖昧にしか答えられない自分。

片思いしてた周りの人がどんどんカップルになっていく。焦ってるだけ？自分に問いかける。

それもあるのかな。

理想はずっと“年上の大人の人”と言い続けてた。いろいろ恋をして人間の思考は年齢と比例するものではないと気づいた。始まりは高3の終わり。あの時にわたしは道を間違えたのかもしれない。

その時に出会った人・・・ヒコ。彼は結構年上だったからか会った時すぐ大人に見えた。ヒコは優しくて面白くて何より一緒にいて安心できた。メールするたびに胸が高鳴って来ないと胸が苦しかった。連絡取るたびにどんどん惹かれていく・・・会えば会うほどもっと一緒にいたいと思う。気づいたときにはヒコの事しか見えてなかった。彼も自分を見てくれると思ってた。でもヒコの家に遊びに行ったとき部屋の中には女物がたくさん・・・化粧品・服・靴。そして女の人と二人で写ってるプリクラ・数え切れないほどの写真。それに気づいたヒコは一言

「元カノのだから気にしないで、そのうち出てくと思うし」

・・・そんなもんなの？あまりにも平気な顔して言われたからあたしが間違ってるのかと思ってしまいそうになる。疑問に思っただけ。当然なはず・・・。

でもヒコから連絡来ると無視できない。会いたいって思っちゃう。

ある日、ヒロが今の問題がきれいに片付いたら付き合おうって言うてくれた。

すごく嬉しくて泣きそうだった。だから待った……。けど待っても待っても進展しない。

ヒロは今まで通りにいっぱい連絡してくれるたくさん好きって言ってくれた。

でも部屋に行っても前のまま、なんも変わってない。口だけだったのかな……。

2・好き・・・

今の状態が当たり前になってきてるのがわかった。

それが嫌でいつになつたらはつきりするのか聞いてみた。

そしたらじゃあ今月中に何とかする。って言ってくれた。

仕事で忙しいのに一ヶ月で片付ける。素直に嬉しかった。

待つ一ヶ月はすごく長くて期待と不安が同時に湧き起こって居てもたってもいらなかった。

月の終わり頃、期待で胸が高鳴り込み上げてくるものが抑えられな
いでいた。

・・・その期待も粉々に砕かれた。結局変わらなかった。
変えようとした跡もまったく。

馬鹿みたい。

言葉で喜んで結局落とされる・・・自分が情けなかった。

それでもヒロとの関係を断ち切れない。誘われると会いに行つてしま
う。

あたしが好きで離れていく訳ないってわかってるから面白がつてる
の？

自分がどんどん都合のいい女になつてる気がした・・・

それでも嫌いになれない。心の奥でヒロを想ってしまう。

そんな自分が情けなくて苦しくて・・・

友達にあたしを思つて止めてくれる。

それでも気持ちちはヒロを忘れてくれない・・・

忘れない、でも会いたくて・・・矛盾に苦しめられて。

いつか綺麗さっぱり片付けてあたしの所に来てくれるんじゃないかって

希望を抱いちゃったりして・・・。

なんでだろう。それが好きって事なのかな・・・。

それが“好き”って事なら誰かを好きになんたくないななんて思ってしまう。

好きになれるだけでいいと思う・・・。

そんな甘い考え現実味が無いのはわかってる。

でも楽なほうへ考えちゃう自分。

3 代わり。

私はきつと弱い人間なんだ・・・。

この辛い日々には耐えられなくて誰かに頼ってしまふ。

そんな時に一緒に居てくれたのがダイキだった。

ダイキは高校1年の時の同級生だった。

お兄ちゃんみたいな存在で“ダア”って呼んでじゃれていた。

しかし高1以来あまり連絡を取ってなかった。月一でメールするしかないくらい。

近況報告みたいなものだった。それもいつもメールだったのに電話がかかって来たのをきっかけによく遊ぶようになった。

ダアはあたしの話を黙って聞いてくれる。

一緒にバカ騒ぎもしてくれる。

ダアにほんとに支えられてきたと日々感じる。

ある日、俺にすれば？と言われた。急なことと言ってる意味がわからず

ポカンとしてるとダアは笑って頭をなでてくれた。

それ以上何も言わずに・・・。

それからもヒロとは相変わらずで、見守ってくれるダアがいて。

だんだん諦めきれない自分に苛立ちを覚え、ダアに申し訳ない気持ちで

いっぱいになってきた・・・。

そんなあたしを見てなのかなぜか鍋食べようと言っことになった。

ダアの家でこたつでちよつと飲みながら鍋をした。

最初は面白い話ばかりして盛り上がったが、ダアが急に説教口調で話し始めた。酔っ払ってるのだろつとおとなしく聞いていると

「酔っ払ってるんじゃないぞ。今のお前見てられないよ。
そんなに苦しいなら俺にしろよ。そいつを忘れるために利用した
っていいから」

その一言に涙があふれた。利用していいって・・・。

この人は何でそこまで言ってくれるんだろう。

でも他の人と付き合って忘れられるわけ無いって事

。ダアが一番わかってるはずだった。彼が経験してきたことから・・・。

それでも言ってくれたのは彼のやさしさだと思う。

4・葛藤

結局、ダアとは付き合わなかった。

ダアの言葉を聞いたあたしは涙が止まらず、
見かねたダアが

「ごめんごめん。ややこしくしてごめんな

このままでもいいさ。多分俺の気持ちも同情が
半分くらいだと思うし。」

後日、また今までのように遊んだときにふざけて聞いてみた。

「あと半分は好きってこと？」

するとダアは笑って

「あとの半分は妹だな。」

やっぱりダアは優しい。。心のでっかい人。

ダアと居ると嫌なこと忘れられる。。

でも結局は見なければいけない。

心が楽になったところにヒロは電話をかけてくる。

「会いたいよー」って。

この一言でまた振り出しに戻る。。。。

そしてまた会いに行ってしまう。

ヒロと会った。そして楽しいと感じてしまう自分に

怒りを感じそれでもヒロの無邪気な笑顔に怒りを忘れてしまう。

その時、ヒロのケータイが鳴った。

チラッと見えた画面には電話番号と見た事ある女の人の写メ。。。
電話に出ずにずっとケータイを見つめている、

「でないの？」と聞くと

「いい。どうせまたなんか買ってきてとかいうのだろうし」

耳を疑った。生活感のある感じが心に刺さる。どうしてこの人はここまで平然として言えるのだろうか。

もう溢れて来る感情を抑えて笑っていることなんて出来なかった。

「帰るね。」あからさまだったかもしれない。

でもそれが精一杯の言葉だった。。

早足で家路に着く。一生懸命、涙をこらえながら。

結局、ヒロは元力ノに出て行ってもらう気なんて無いんだ。

ケータイとは実に便利で不便だ。

誰とでも連絡取れるがとりたくない人からも連絡が来る。

ヒロからの電話。何回も何回も。。。。

自分との葛藤の時間。。。。

通話ボタンを押してしまいそうな手と出ちゃいけないという意味。

5・あやまち。

どうして・・・。

ヒロがわからない。なにを考えてるの？

そして行き着く答えは・・・都合のいい女。

わかっているのに諦められない・・・。

そんな自分が悔しくてしょうがない。

そしてダアに助けてもらう。その繰り返し。

わたしは考えた。これじゃあ意味ないし、

それに何よりダアを巻き込みすぎてる。

だから決めた。もう好きとかそういう感情はやめよう。

でもダアにはこのことは言わない。

反対されるに決まってるから。そしてまた心配かけてしまうから。

自然にヒロの話題をなくしていけばダアも安心

するだろうと思ったから。

それから寂しさを紛らわすように遊んだ。

友達の紹介でも地元の知り合いでなんでも相手をしてくれる人と。

そんなとき特に一緒にいたのがマサル。

女友達といえることもあったが、やっぱり女の子同士というのは

恋バナに盛り上がるもので、それがちよつと辛い部分があつて。

その反面、マサルは彼女ほしいわけでもなくただ遊び相手がほしい

という点で意気投合したから一緒に居る機会が多かつたんだろう。

それでもヒロは忘れさせてくれない・・・。

気持ちが悪く落ち着いた時に連絡してきて心を掻き乱す。

そのたびに傷つくのが怖くなって、人を信じなくなる・・・。

そして投げやりになる・・・。

ある日、あたしはマサルと関係をもった。

それからお互いに若干の感情を持つようになってしまった。

そしていつものように二人きりになった時、

「お前のこと好き。でも付き合えないのが残念・・・」
といわれた・・・。

マサルの友達によると、いろいろあつて彼女作らない
と決めてるらしい。

色々ねえ・・・。

ヒ口のことを頭をよぎった。

6・やっぱり・・・

またか。。って思ってしまう。

でもちよつと都合が良い事かもしれない。

付き合おうなんて思っていないから・・・。

と言い聞かせてただけかもしれない。

心のどこかでがっかりしてた自分が居る。

また、付き合つては無いけど友達といえるのか・・・ハッキリしない関係だ。

わたしはこれからずっとこのままなのかな・・・。
結局変わらないんだ。

ヒロを忘れられないまま・・・

ほかの会おう人とも中途半端なまま。

マサルがヒロと重なって見えて、ヒロの事を考えると
連絡が来る。

「会おうよ」

ヒロの言葉はすごい・・・。

誰の優しい言葉よりもどんなに長い時間よりも

その一言だけであたしを動かす・・・。

傷つくとわかっていても会いに行ってしまう。

そしていつものように期待させるようなことを言う。

「早くみんなに堂々と言える関係になりたいな」

ひとこと??ヒロがハッキリすればいいんじゃないの？

と思ってしまう。それなのに待ってしまう・・・。

どんなに傷ついたってむかついたって

想ってしまうんだ。。

気持ちを抑えられない・・・。

マサル、中途半端でごめんね。

ダア、あんなに支えてくれたのにごめん。

でもあたしには希望は見えない。

きっと同じ事を繰り返しちゃう・・・。

ヒロとは付き合えないのに想い続けちゃうと思う。

このままずっと・・・。時間が解決できるようになるまで・・・。

早く光を見つけないな。ヒロじゃない光を・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1819d/>

曖昧な関係

2010年10月21日20時58分発行